

スポーツ輪投げ“クロリティー”は、アメリカで人気の高い歴史のあるゲーム“ホースシューズ”と日本の伝統的な輪投げをミックスして考案されたスポーツ輪投げです。

この競技の特徴は、リングが目標棒に入らなくても、リング（輪）の一部がベース（得点盤）内であれば得点となりますが、次のプレーヤーの機転で、すでに投げられた味方のリングを有利にしたり、相手のリングを不利にしたりできるのが、面白いところです。特に専門的な知識が必要でなく、ルールも簡単なので、子供から高齢者に至るまで、誰でも楽しむことができる健康スポーツです。

1 場所と用具

平らなレーン（幅91cm×長さ10m）の上。ボードから3m, 5m, 7m, 9mの位置にラインを引く。

ボード…75cm×75cmの正方形。材質は木製、ボードの傾斜は60度。

リング（輪）…20個（1レーンにつき）

2 人数

シングルス（1対1）、ダブルス（2対2）、ミックスダブルス（男女2対2）

3 競技方法

(1) ジャンケンで投げ輪の順番を決める。

(2) シングルスは交互に1個ずつ、各々計10個のリングを片手で投げる。ダブルスは、先攻・後攻交互、または5投ずつ投げる。

※ あらかじめ決められた指定位置（ライン）から足を出してはいけない。

※ 投げたリングが静止するまで、ラインより前に出てはいけない。

4 勝敗の決め方

1セットの勝敗は、以下の方法により得点の総合計で決める。

①シングルス（子供・高齢者）

3m, 5m, 各距離10投×2回=20回（満点200点）

②ダブルス（子供・高齢者）

5m, 7m, 9m,

各距離10投×3回=30回2人合わせて60回（満点600点）

5 有効得点

得点の判定はプレーヤー立ち合いのもとすべて審判員により行われる。各距離3m, 5m, 7m, 9mからボードに向けて投げ輪した後有効な得点を数える。有効な得点とは、反則しないで投げ輪し、ボード上にリングがあることが条件。

何点になるかは、ボード上に点数ごとに色分けされたエリアのうちリングが半分以上かかっているエリアの点数によって決める。有効得点になる場合は次のとおり。

(1) ボード上に単独である場合。

(2) 相手チームのリングの上に重なっている場合。

ただし、さらに相手チームのリングが3分の1以上、上に重なっているような場合は得点に数えられない。

もし、重なっているような場合は、上に重なっているプレーヤーのリングが得点対象となる。

(3) センターポールにかかっている場合。

(4) リアクションボードを利用してボード上にリングがある場合。いわゆるテクニカル得点となる。

(注) 反則や、地面上に1度落ちた後、バウンドしてボード上にある時は得点として認められない。また、反則やバウンドしたリングの影響によってボード上に変化が生じた時は、審判員によりすみやかに元の状態に戻す。

6 クロリティー判定機

相手チームのリングの上に重なっている場合に使用。3分の1以上重なっているかどうかを判定する時は、判定機のAの部分でリングの重なった部分に入れる。リングが動かなければ3分の1以上重なったとみなし、下のリングの得点は無効となる。

<例1>

金リングの上に銀リングが3分の1以上重なった場合。一番上の銀リングによって得点が決まり、下にある2つの金リングは両方とも得点を失う。

<例2>

金リングの上に銀リングが3分の1以上、その上に更に金リングが3分の1以上重なった場合。一番上の金リングによって得点が決まるため、下にある銀リングは得点を失うが、一番下の金リングは得点に加算される。

